地球のココロおどらせよう。

TOSE TIMES

特 集 社長インタビュー

「中期経営ビジョン NEXT 2021」始動！
渡辺社長が語るトーセの未来

2018年8月期（第39期）株主通信
2017年9月1日～2018年8月31日

東証一部：4728

株式会社トーセ

経営方針

戦略 「永遠に続く会社づくり」
戦術 「縁の下の力持ち」
標語 「地球のココロおどらせよう」

ビジョン（基本方針）

より良い製品とサービスを社会に提供し、
健全で豊かな社会の実現に寄与する。

バリュー（行動指針）

信頼 信頼を得る正直かつ誠実な行動
私たちは、人間、文化、習慣を尊重するとともに、信頼が得られる正直かつ誠実な行動をとり、法令・倫理規範を遵守した企業活動を行います。

努力 人々に感動を与える努力・研鑽
私たちは、企業活動を通じて人々に感動を与えるために、努力を怠らず、自ら一人ひとりが成長してまいります。

挑戦 理想や目標に向けた変革への挑戦、リーダーシップ
私たちは、社会に価値あるものを提供するために、理想や目標に向けた変革を求め、失敗を恐れずに挑戦し続けます。

共生 感謝を忘れず共生の精神
私たちは、ステークホルダーとの関係を尊重し、感謝を忘れず、共に成長・発展してまいります。

貢献 ステークホルダーへの利益還元、社会への貢献
私たちは、企業活動を通じてステークホルダーへの利益還元を実現するとともに、地域社会の発展への協力など幅広く社会へ貢献してまいります。

CONTENTS

▶ トップメッセージ …… 2
▶ 特集：社長インタビュー
「中期経営ビジョン NEXT 2021」始動！
渡辺社長が語るトーセの未来 …… 3
▶ 当期の業績 …… 5
▶ セグメント別の業績 …… 7
▶ TOSE LOUNGE：株主様アンケート集計結果のご報告 …… 9
▶ 株式情報 …… 10
▶ 会社概要 …… 裏表紙

齋藤 茂
代表取締役会長 兼 CEO

渡辺 康人
代表取締役社長 兼 COO

企業価値の持続的向上を目指し、期待を超える高付加価値サービスを提供し続けてまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループを取り巻く事業環境は、家庭用ゲーム市場において「プレイステーション4」の普及拡大が続く中、「Nintendo Switch」の全世界累計販売台数が2,000万台目前に到達するなど明るい動きが見られました。また、第18回アジア競技大会で公開競技として「eスポーツ」が初めて実施されるなど、ゲームの新たな楽しみ方が広がり、ゲーム市場のさらなる成長が期待される状況となりました。一方、スマートフォンゲーム市場は、ユーザー獲得に向けた競争が激化する中で、バトルロイヤルといったジャンルのゲームが人気を博し盛り上がりを見せました。

このような状況のもと、当社グループは「サービス業務の拡大」「グローバル化の推進」「サービス分野の拡大」「収益基盤の拡充」という成長戦略を推進し、中長期的な企業価値と資本効率の向上に努めてまいりました。これにより、当期の業績は、複数のスマートフォン向けゲームにおける運営売上が大幅に伸長したものの、顧客側で市場動向やユーザーニーズの変化を勘案し、開発中止となった案件が発生したことなどから、誠に遺憾ながら、前期を下回る結果となりました。

今後もゲーム市場は海外を含めて拡大することが期待される一方で、より多くのユーザーを獲得するための開発費や運営費などが増加する傾向にあります。当社グループではこうした事業環境のもとで持続的成長を実現すべく、基盤となる組織体制の確立、次世代を担う人材の育成、培った技術や情報を効率的に活用する仕組み作りなどに取り組みつつ、お客さまの期待を超える高付加価値サービスを提供し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当金について

企業体質の強化と新たなビジネス分野への積極的な事業展開に備えるために内部留保資金の充実を図りつつ、株主の皆様に対し安定的な配当を維持していくことを基本方針としております。

2018年8月期 年間配当金（1株）	25.0円
2019年8月期 年間配当金（予想／1株）	25.0円

社長インタビュー

「中期経営ビジョン NEXT 2021」始動！

渡辺社長が語るトーセの未来

トーセは、2021年8月期までの3カ年を対象とする「中期経営ビジョン NEXT 2021」を策定しました。経営方針に掲げる「永遠に続く会社づくり」に向け、本ビジョンの下、トーセは、組織戦略と事業戦略を重点施策として推進いたします。中期経営ビジョン策定の背景と今後の取組みなどについて渡辺社長に語っていただきました。

策定の背景

新たな40年に向けた方向性の明確化

前中期経営計画では、スマートフォン向けゲームへの対応など一定の成果を挙げたものの、計画数値を達成するには至りませんでした。しかしながら、この期間で、今後の持続的な成長を実現していくための課題が明確になったと考えています。

当社グループは、2019年に創業40周年を迎えますが、新たな40年への第一歩を踏み出すべく、今後激変する環境下においても常にお客様から必要とされ、持続的に企業価値と資本効率を向上させるため、グループの進むべき方向性を明確にすることが必要と考え、このたび「中期経営ビジョン NEXT 2021」を策定いたしました。

取り組むべき課題

組織体制の確立と進化する技術への対応

今後、高性能・高精細の次世代ゲーム機の登場が予想され、事業面では、新たなプラットフォームへの技術対応が求められるとともに、開発・運営・プロモーション費が増加傾向にある中、受託ビジネスを担う当社においても、マーケティング、プロモーションからコンテンツ開発まで一体的に取り組むことで、多数のユーザーを獲得し顧客へ貢献することが強く求められています。

一方、組織面においても、持続的な成長を支える体制の確立に加え、次世代を担う人材の育成、さらには、培った技術や情報を効率活用する仕組み作りなど組織面の整備も喫緊の課題と認識しています。

「中期経営ビジョン NEXT 2021」の概要

中長期的な企業価値と資本効率の向上に向け、3つの組織戦略と2つの事業戦略を推進

まず、2021年8月期までの3年は、喫緊の課題である3つの組織戦略を中心に取り組みつつ、2つの事業戦略を推進し、持続的な安定成長を図ってまいります。

組織戦略としては、①組織の再編成、②人材育成、③グローバル化の推進に取り組んでまいります。組織の再編成については、前期に導入したプロジェクトマネージャーによる開発管理制度を早急に確立することが急務と考えています。また、将来に備え研究開発の専門チームを設けるなど、顧客視点に立った開発・運営サービスを可能にする組織の再編成に取り組みます。次に、次世代を担う開発スタッフや経営マインドを持った人材の育成を図ってまいります。さらに、技術者が育ちつつある海外子会社を積極活用し、グローバルな事業体制を構築いたします。9月から海外事業推進室に加え、海外開発サポート室を新設するなど体制整備を実行しています。

事業戦略としては、サービスの高付加価値化による収益基盤の強化を進めてまいります。すでに、スマートフォン向けゲーム運営の分析チームを設置し、開発・運営力の向上はもちろん、マーケティングやプロモーションに生かす取り組みを始めました。また、技術進歩・外部環境を適切に捉えた既存事業の技術力向上と新事業分野への進出にも取り組みます。

これらの5つの重点施策に全社一丸となって取り組み、企業価値と資本効率を持続的に向上させてまいります。

「中期経営ビジョン NEXT 2021」－中長期的な企業価値と資本効率の向上に向けて－

外部環境の急速な変化に対する当社の取り組むべき課題

組織面

- 持続的な成長のための組織体制を確立
- 次世代を担う人材を育成
- 培った技術や情報を効率活用する仕組み作り

事業面

- 「プレイステーション5」など高性能・高精細の次世代ゲーム機など、新たなプラットフォームへの技術対応
- マーケティング、プロモーションおよびコンテンツ開発の一体的取り組みによる多数のユーザー獲得

組織戦略

- 戦略1　顧客視点に立った開発・運営サービスの提供を可能にする組織の再編成
- 戦略2　次世代を担う開発スタッフ・経営マインドを持った人材の育成
- 戦略3　海外子会社を中心としたグローバル化の推進

×

事業戦略

- 戦略1　サービスの高付加価値化による収益基盤の強化
- 戦略2　技術進歩・外部環境を適切に捉えた既存事業の技術力向上や新事業分野への進出

▶ 当期の業績

売上高
4,517 百万円

営業利益
228 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益
188 百万円

1 スマートフォン向けゲームの運営売上が大幅伸長するも、減収減益

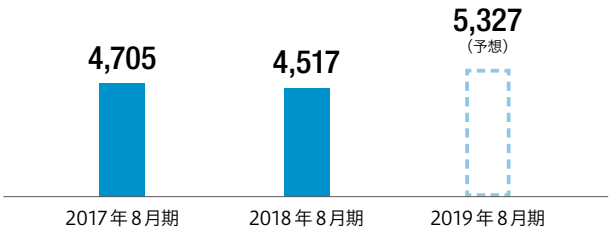
複数のスマートフォン向けゲームで運営業務を着実に遂行したことに伴い運営売上が大幅に伸長したものの、開発中止案件の発生および販管費の増加などにより、減収減益となりました。

2 次期は、持続的な安定成長に向けて、売上高・営業利益ともに15％超の成長を見込む

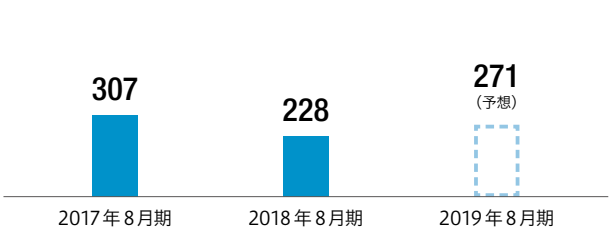
持続的な成長の基盤となる組織体制の確立などに取り組み、高付加価値サービスを提供し続けることで、次期は、売上高53億27百万円、営業利益2億71百万円の増収増益を目指します。

連結業績ハイライト（単位：百万円）

売上高



営業利益

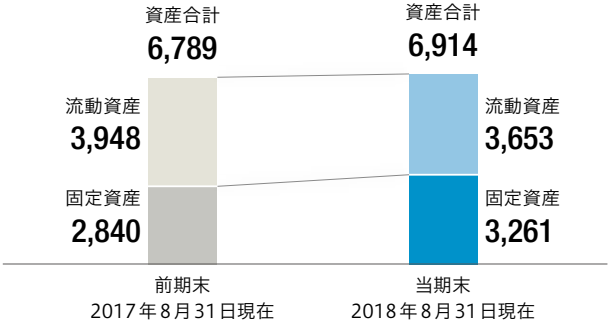


経常利益

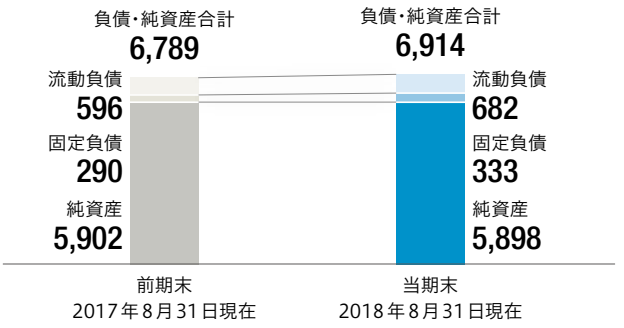
親会社株主に帰属する当期純利益

連結貸借対照表（単位：百万円）

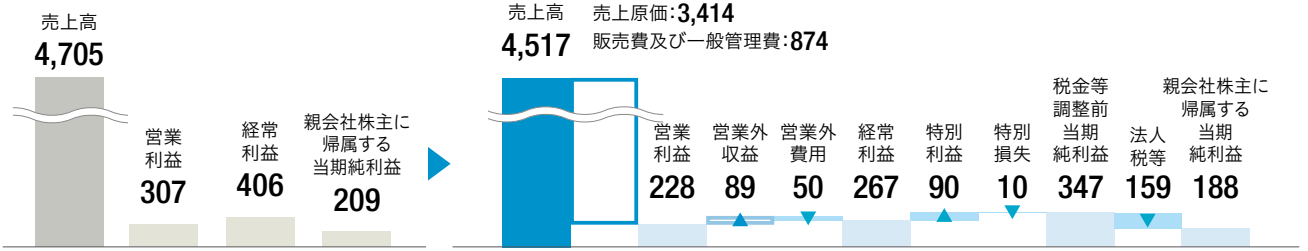
資産の部



負債・純資産の部



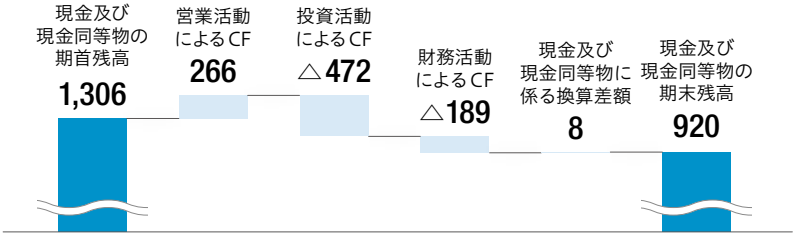
連結損益計算書（単位：百万円）



前期（2016年9月1日～2017年8月31日）

当期（2017年9月1日～2018年8月31日）

連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）



当期（2017年9月1日～2018年8月31日）

詳細はこちらから

▶QRコードで簡単アクセス

※QRコードの読み取りには、専用のアプリが必要です。

▶ブラウザから検索

トーセ　IR情報　検索

▶URLを直接入力

https://www.tose.co.jp/ir/index.html

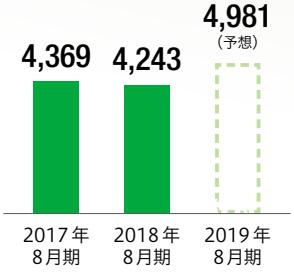
デジタルエンタテインメント事業

DIGITAL ENTERTAINMENT BUSINESS

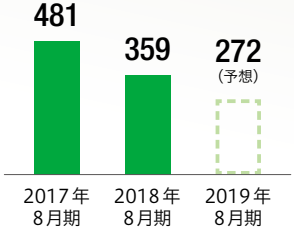
ゲームを中心とするデジタルコンテンツの企画・開発・運営などの受託

（単位：百万円）

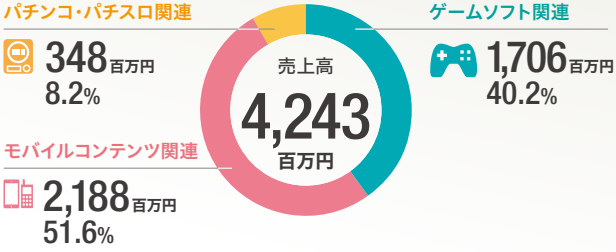
売上高



営業利益



製品別売上構成



売上高

4,243百万円

営業利益

359百万円

● ゲームソフト関連

スマートフォン向けゲームの開発依頼の増加に伴い、適切な人員配置を行うべく、モバイルコンテンツ関連に多くの開発人員を投入した結果、売上高は17億6百万円となりました。

● モバイルコンテンツ関連

複数のスマートフォン向けゲームにおいて運営業務を着実に遂行し、運営売上が大幅に伸長した結果、売上高は21億88百万円となりました。

● パチンコ・パチスロ関連

規制強化の影響により引き続き厳しい受注環境が続いた結果、売上高は3億48百万円となりました。

● 事業全体

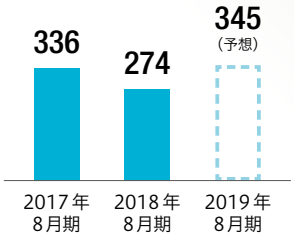
これらの結果、デジタルエンタテインメント事業全体の売上高は42億43百万円となりました。また、販売費および一般管理費の増加に伴い、営業利益は3億59百万円となりました。

その他事業
OTHER BUSINESS

東南アジア向けコンテンツ配信事業やSI事業、子会社の株式会社フォネックス・コミュニケーションズによる家庭用カラオケ楽曲配信事業やパソコン向けアバター制作業務などの新規事業

（単位：百万円）

売上高



営業損失

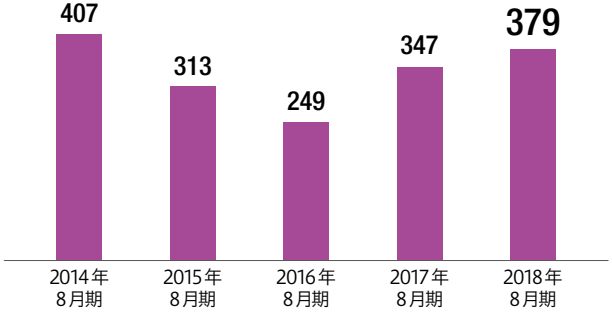
売上高	営業損失
274百万円	△130百万円

子会社の株式会社フォネックス・コミュニケーションズにおいて、新規案件の受注が低調に推移し、売上高は2億74百万円となりました。一方、東南アジア向けコンテンツ配信事業における先行投資により、営業損失は1億30百万円となりましたが、先行投資費の減少により、赤字幅は縮小しております。

▶ 稼働プロジェクト数の推移（単体）

プロジェクトの大型化に伴う減少傾向に底入れの兆しが見られています。2018年8月期も、スマートフォン向けゲームを中心に開発の引き合いが増加しており、回復傾向が継続しました。

（単位：件数）



※件数には、運営プロジェクトを含んでおります。
なお、件数は試作案件も含めた案件数のため、タイトル数を示すものではありません。

▶ 開発タイトル数・運営サイト数

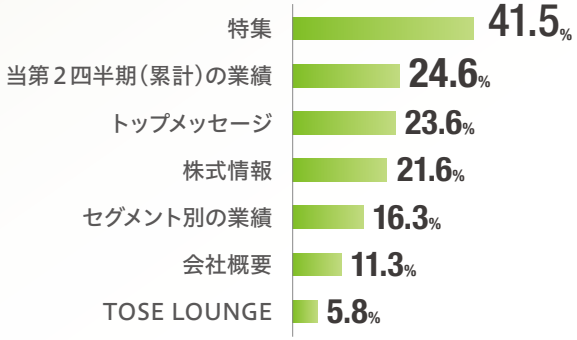
（単位：タイトル）

	2018年8月期	2019年8月期（予想）
携帯型ゲーム機向けソフト		
ニンテンドー3DS	1	0
据置型ゲーム機向けソフト		
Switch	1	2
PS4	1	1
Xbox One	1	0
パソコン向けソフト	4	1
スマートフォン向けコンテンツ	10	12
開発タイトル数 合計	18	16
運営サイト数	27	26

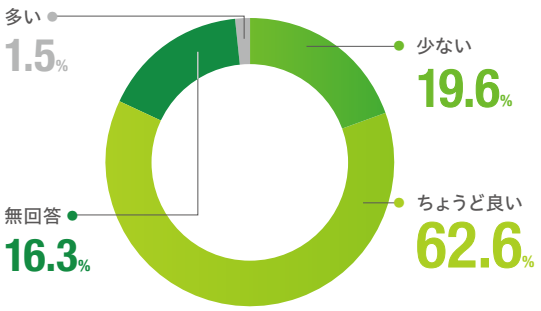
株主様アンケート 集計結果のご報告

前回の株主通信に同封させていただいたアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。いただきましたご意見の一部をご紹介いたします。皆様からの貴重なご意見・ご要望を活かし、今後のIR活動や株主通信のさらなる充実に努めてまいります。

Q. 株主通信で関心を持たれた内容は？（複数回答）



Q. 株主通信の情報量はいかがですか？

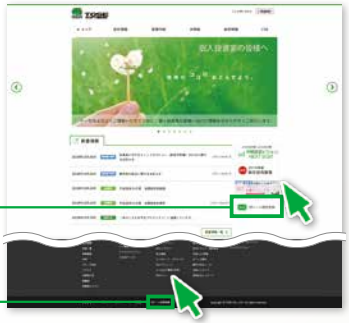


今後のIR活動や株主通信の参考とさせていただくため、株主様を対象としたアンケートを実施いたします。
大変お手数ではございますが、同封のアンケートはがきにてご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

IRメール配信サービスのご案内 Click here

株主の皆様にタイムリーに開示情報をご提供するため、ご登録いただいたメールアドレスに、IR関連の新着情報を配信しております。
当社ホームページ、IR情報サイト内の「IRメール配信登録」にてご登録いただけますので、是非ご活用ください。

ホームページ



IR情報

https://www.magicalir.net/4728/mail/index.php

株式の状況

発行可能株式総数	31,000,000株
発行済株式総数	7,763,040株
株主数	6,026名

大株主（上位5名）

氏名または名称	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社 S-CAN	1,178,500	15.18
株式会社シン	388,700	5.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	369,000	4.75
株式会社京都銀行	311,200	4.01
齋藤 茂	225,500	2.90

株主メモ

事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月下旬
配当の基準日	期末配当 毎年8月31日 中間配当 毎年2月末日
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ（https://www.tose.co.jp/）に掲載いたします。電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

会社名	株式会社トーセ（TOSE CO., LTD.）
証券コード	4728
設立	1979年11月1日
資本金	9億6,700万円
本社所在地	京都市下京区東洞院通四条下ル
事業内容	家庭用ゲームソフトの企画・開発・運営 モバイル・インターネット関連コンテンツの企画・開発・運営
従業員数（連結）	609名

ネットワーク

＜国内＞
- 株式会社トーセ
  - 京都本社
  - 山崎開発センター
  - 西大路開発センター
  - 長岡京開発センター
  - 東京開発センター
  - 札幌開発センター
- 株式会社フォネックス・コミュニケーションズ

＜海外＞
- 東星軟件（杭州）有限公司
- TOSE PHILIPPINES, INC.

役員

代表取締役会長	齋藤　茂
代表取締役社長	渡辺　康人
取締役	平井　富士男
取締役	齋藤　真也
取締役（社外）	舟橋　良博
常勤監査役	馬場　均
監査役（社外）	藤岡　博史
監査役（社外）	山田　善紀

執行役員

CEO	齋藤　茂
COO	渡辺　康人
上席執行役員	平井　富士男
執行役員	齋藤　真也
執行役員	中川　尚樹

トーセ ホームページ
「IR情報」のご案内

株主・投資家様向けの情報を
開示しています。是非ご覧ください。

https://www.tose.co.jp/ir/index.html

● コーポレートサイト

● IRサイト

CI（コーポレートアイデンティティ）

成長しつづける緑の大樹としっかりと大地に張った根をモチーフにデザインを展開。根っこで成長企業を支えながら、ともに成長して行く方向性を表わしています。視覚訴求の赤いラインは「自制・節度を持って」という意味を併せ持ちます。